

## 主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	2014年度 売上高(実績) (億円)	対前期 増減率	2015年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率
グラクティブ錠	308	△ 13.7%	320	+ 4.0%
オパルモン錠	248	△ 23.6%	225	△ 9.4%
リカルボン錠	103	△ 7.4%	110	+ 7.0%
イメンド／プロイメンド	86	△ 1.8%	95	+ 10.5%
オノンカプセル	102	△ 23.9%	90	△ 12.1%
リバスタッチパッチ	68	+ 6.0%	85	+ 25.4%
フォシーガ錠	15	(2014年5月発売)	75	+ 386.6%
オレンシア皮下注	41	+ 419.2%	70	+ 69.2%
オノンドライシロップ	58	△ 16.0%	55	△ 5.0%
フオイバン錠	61	△ 24.2%	50	△ 17.6%
オノアクト点滴静注用	47	+ 6.3%	50	+ 7.3%
ステープラ錠	53	△ 19.2%	45	△ 14.5%
キネダック錠	48	△ 35.5%	45	△ 5.9%
オプジーボ点滴静注	25	(2014年9月発売)	35	+ 38.3%
注射用エラスポール	27	△ 24.1%	20	△ 25.3%

## 抗PD-1抗体「オプジーボ®点滴静注」効能追加承認申請

昨年7月に悪性黒色腫の治療薬として、世界に先駆けて国内で承認を取得、同年9月に新発売しました抗PD-1抗体「オプジーボ®点滴静注」について、本年4月、国内において非小細胞肺癌（非扁平上皮がんを除く）に対する効能追加承認申請しました。

肺癌は、がんによる死亡の主要因となっており、非小細胞肺癌は国内における肺癌の約85%を占めています。外科手術

による切除が不能、かつ既存治療が無効となった非小細胞肺癌患者さんの予後は極めて悪く、既存治療薬の治療効果も十分とは言えないことから、新たな治療薬の開発が期待されています。

今回効能追加の承認申請を行った扁平上皮がんは、非小細胞肺癌の患者さんの約20%ですが、非小細胞肺癌の約80%を占める非扁平上皮がんについても、効能追加を目指して現在開発中です。

